



現在竹藪になっているあたりに影山城があったという

たび川が氾濫し、人々は大変難渋した。川沿いに築かれた城も何度も流され、その度に建て直すという繰り返してあったという。そこで、水害の心配の無い三滝山に移した。

西氏は、本在家城の東氏の分流で、東氏と同じ伊予河野氏の流れをくみ、本姓は越知氏。東氏らと同様、初めは一条氏に仕えた。一条氏支配の末期、当時の西氏当主・西荘司和泉守越知宗勝(通称・西宗勝)は、一条氏の領地の東端に置かれた八つの番頭のうち、川原番頭という職にあったという。その後、長宗我部元親が一条氏を滅ぼし、土佐を平定したことにより、西氏は長宗我部配下となる。1596年、豊臣秀吉による朝鮮出兵のおり、西氏を含む「仁井田五人衆」に対して、元親から出兵の命令が出るのだが、宗勝は留守役守護職を命ぜられた。そして、朝鮮半島へ出陣する人々を、与津(現在の興津)の港まで見送りにいく途中、仁井田川を馬で渡ろうとしたのだが、折からの大雨による増水で、馬もろとも流され溺死してしまふ。実は、西宗勝は乗馬の達人だったらしく、この時も、おそらく自信満々だったのではないだろうか。不幸にも、このことで、西氏は断絶し、滅びてしまったという。

現在の影山地区を見渡す。この地を中世の武人・西宗勝が見事な馬さばきで駆け抜けていたことに思いを馳せる。地区の成り立ちに大きく関わった人物である。

町のうごき	(3月31日)		前月比		出生		死亡		転入		転出		
	男	女	計	世帯数	男	女	計	男	女	計	男	女	
	8,634	9,657	18,291	8,646	3	5	8	13	12	25	41	46	87
	-40	-43	-83	0									

(3月中の届出)

四万十川の  
水質状況

	適正值(mg/l)	4月16日
リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.240
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.200
化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以上

調査：大正(吾川)  
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/>  
※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

四万十町  
町内「ふら〜り」散策

影 かげ  
山 やま

前 回の志和分の対岸。小野川の西隣である。28世帯・54人の住民が暮らしている。

古くは景山とも、陰山とも書かれたらしい。江戸期、諸藩の大名などが、徴収した年貢米などを民間に売却し換金していたのだが、その元となる年貢米生産地の生産履歴や生産力などを記した「地払帳」というものがあった。そのひとつ、元禄地払帳によると、西陰山村と志和陰山村と二村に分けて記載しているが、西陰山村が現在の影山、志和影山が志和分にあたる。西陰山の冠となった「西」は、戦国期にこの地を支配していた西氏を指す。西氏支配期、影山地区の北側の三滝山の山上には、西氏の居城・影山城があった。ただ、この影山城は、三滝山上に築かれる前は、四万十川沿いにあつたとされているのだが、それについてはあまり知られていない。志和分を紹介させていただいた中で記したが、この流域は、たび